

新潟市暮らしの点検・評価アドバイザー会議におけるご意見への対応等

事業名：魅力発信・誘客推進事業

No.	ご意見	対応等
1	宿泊施設にオーダーを出すなどして、延べ宿泊者数の内訳（観光目的、ビジネス目的等）のデータベースをしっかりと作っていただきたい。	いろいろなデータを整理し、戦略を立てて事業を進めないといけないと考えている。来年度新規事業で詳しい調査、データ分析を行う予定である。
2	受け入れる側のイスラム対応（食べるもの、宿泊など）が進んでいない。インドネシアなどからのインバウンド強化のためにも、イスラム対応の下支えをしていかないといけないか。	ハラル対応については、本市も参画し、官民で組織している新潟県国際観光テーマ地区推進協議会において、宿泊・観光事業向けにセミナー等を開催している。引き続き関係機関と連携して、ハラルについての基礎知識習得など支援を行いたい。
3	台湾便をどれだけ続けられるかが大事。東北地方は中国よりも台湾のお客さんが多い地域も非常に多いので、新潟市としてもぜひ勝負の時期だと思うので、しっかり取り組んでほしい。	昨年11月より新潟・台北線が週2便定期チャーター便として運行しており、4月以降の運行も予定されている。会津若松市や佐渡市など県内外の自治体と連携し、来年度以降も誘客に努める。また、新潟から台湾への旅客拡大にも努め、路線の定期化につなげたい。
4	ベトナムが日本語を第一外国語にするなど、注目されている。ぜひ狙いをつけてインバウンド施策に取り組んでほしい。	現地市場の状況等について県をはじめとする関係機関、観光事業者と情報交換を行い、把握に努めたい。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・冬場の誘客をどうするか、MICEも他の要素も冬場の稼働を上げる、平準化することで、関係施設も食べていけるような状況になる。そのためにも冬場の「体験」をどう作っていくかぜひ検討してほしい。 ・グリーンツーリズムが名前としては定着してきたが、受け入れ態勢がシステム化されていない。体験を受け入れる基盤づくりと体験と体験を連動させるシステム作りに取り組んでほしい。 	本市は、生産地と消費地が近く、その両方を楽しめる土地柄であることから、生産から料理する背後にある文化まで体験をとおして、具体的に味わってもらうガストロノミーツーリズムを構築するため、農林水産部とも連携しながら、受け入れ態勢づくりを進めていく。

6	<p>まちなかの空き家を宿泊施設として活用し，外国人観光客向けに整備するなどして，受け入れ態勢を考えていけば誘客も伸びるのではないか。</p>	<p>外国人だけではなく旅行者のニーズは、その都市の在住者生活にふれることに興味を持っていると認識している。</p> <p>空家を活用しての宿泊は、新潟市内の宿泊施設の稼働率が低いことや、騒音・ゴミ問題など地域住民の理解を得る必要があるなど、考慮しなければならない点が多いことから、現段階では難しいと考えている。</p> <p>しかし、新潟への訪日外国人が増え、宿泊施設不足の場合は、対応していかなければならない問題である。</p>
7	<p>観光客を誘致した業者だけにインセンティブを与えるのではなく，新潟の魅力を積極的に海外にアピールされている方にもスポットライトを当ててほしい。</p>	<p>外国人旅行者の個人旅行化が急速に進んでおり、現地消費者へ本市の魅力を直接訴求するため、海外メディアの招聘等による魅力発信に努めている。来年度も台湾やシンガポール等を対象に、現地メディアを活用した魅力発信事業を行う予定。</p>

■その他参考意見

- ・新潟のまちなかには，古い良いお店もたくさんあることから，着物の貸し出し，化粧から髪型まで全部一式でいくらというサービスがあれば，まちの活性化にもつながるし，観光誘客にもなると思う。
- ・ガストロノミーツーリズムであったり，食の見本市など，良い取り組みをもっとPRしてやっていかないともったいない。